スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

兵庫県南あわじ市

自 治 体 名 ： 兵庫県南あわじ市
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 0799-43-5231

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	229㎢
人口	40,701人
公立中学校数	5校
公立中学校生徒数	1,125人
部活動数 （運動部活動のみ）	33部活
地域クラブ活動数	38クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

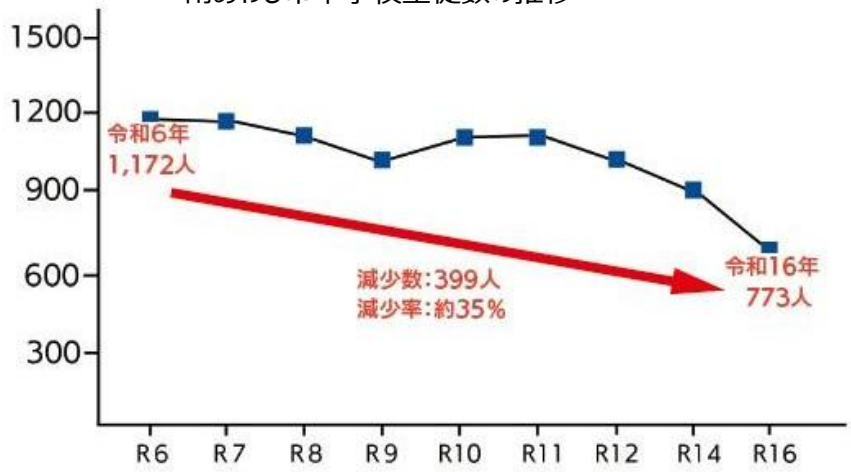
少子化の進展により、本市の小学生・中学生数は減少傾向にあり、10年後には約3分の2になると見込まれ、今後は、これまで以上の速さで少子化が進むことが予測される。

生徒が減った学校では、野球やサッカー等多人数で行う種目の活動が難しくなり、また、生徒の減少に伴う教職員の減少により部活動の顧問の配置が難しくなる等、部活動の減少・活動低下を招いている。今後も更なる少子化の進展が予想される中、中学校の部活動をこれまでと同じ体制で運営していくことが困難になる。しかし、単に部活動の運営をそのまま地域に移行するだけでは、参加者や指導者が確保できないといった課題は解決できない。そのため、学校やこれまでの部活動の枠にとらわれない、持続可能な新しい体制の構築が求められている。

そこで、令和7年1月に、市の方針として、令和10年8月末までは、従来の学校部活動を継続しつつ、部活動指導員の拡充や地域クラブ活動の充実に向けた取組を推進し、令和10年9月より学校部活動から地域クラブ活動へ完全移行し、ミナ・カツ（南あわじ市地域クラブ活動）を展開することを決定した。

学校部活動が地域クラブへそのままスライドするのではなく、あくまで、地域とともに子どもを育てていくということで、子どもたちのみならず、大人も地域の誰もが文化芸術やスポーツ活動に親しむことのできる環境づくりを目指し、地域コミュニティの活性化につながるよう進めていく。

南あわじ市中学校生徒数の推移



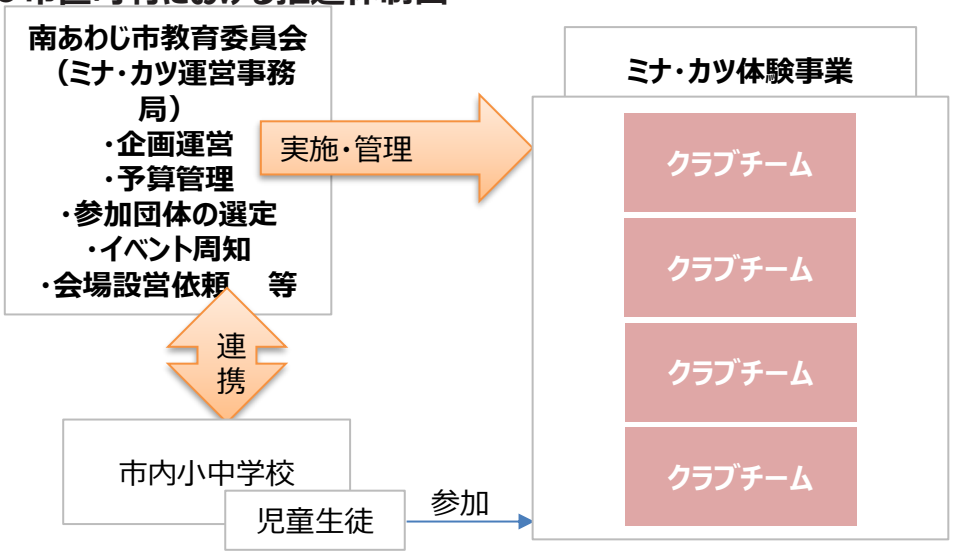
MINA・KATSU推進計画資料より

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
- スポーツ青少年課・・・スポーツ団体との連絡調整、スポーツ施設の管理等
- 社会教育課・・・文化団体との連絡調整、公民館の管理等
- 学校教育課・・・学校に関する事項について
  ※地域クラブ設立に向けた意見交換会および情報提供（3課で連携）

◉首長部局
- 財務課・・・財政的支援の体制整備

年間の事業スケジュール

令和7年4月　市広報4月号特集記事、PR動画制作

5月　第1回部活担当者会

第1回受入団体向け説明会

6月　アンケート調査（生徒）
7月　アンケート調査（児童）

令和8年1月　第2回部活担当者会

アンケート調査（地域クラブ）

MINA・KATSUフェスティバル

2月　中学校入学説明会

第3回部活担当者会

3月　第2回受入団体向け説明会
（通年随時）部活動顧問、種目協会、地域クラブとの協議
受入可能団体募集

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		38クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（および移行された部活動数）		24クラブ
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		14 クラブ
全体の指導者数	92人	全体の運営スタッフ数	8人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
淡路島弓道会	競技団体	弓道	・休日　1回	日 12:30～15:30	1年：0名 2年：3名 3年：0名	通年	6人	0 人	100円/回	その他：地域クラブ
あわじ護身術クラブ	一般社団法人	護身術	・平日　2回 ・休日　1回	水・金 19:00～21:00 日 10:00～12:00	1年：0名 2年：5名 3年：0名	通年	5人	0人	2,500円/月	その他：地域クラブ
洲本ジュニアソフトテニスクラブ	競技団体	ソフトテニス	・休日　1回	日 9:00～12:00	1年：0名 2年：2名 3年：1名	通年	3人	2 人	2,000円/月	その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

MINA・KATSUフェスティバル（地域クラブ活動体験会）の実施
実施日：令和8年1月24日（土）
対象：小中学生、保護者
内容項目：地域クラブの体験ブース、各クラブの活動紹介パネル展示、指導者・事務局による相談コーナーの設置

2.実証内容と成果

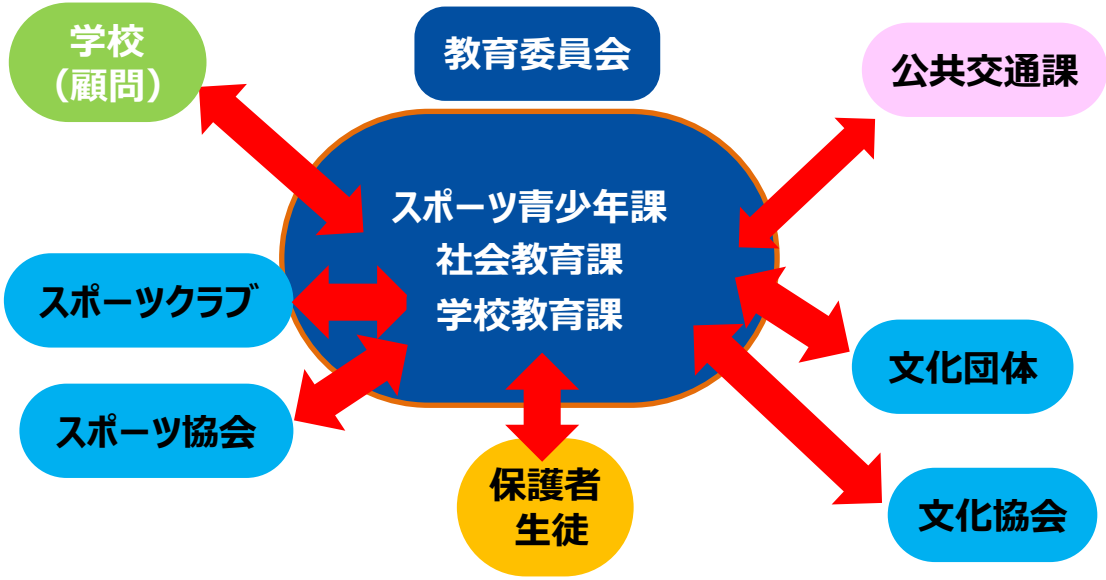
スポーツ庁

主な取組例

●淡路デルフィーノJr.　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	淡路デルフィーノJr.
期間と日数	月8回程度
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	湊小学校体育館、西淡社会教育センター
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	2,000円/月
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：2,000円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●教育委員会

役割：地域展開に係る各受け入れ可能団体との連携を行う

●指導者

役割：各団体において生徒への指導および保護者対応を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 令和10年度の部活動地域展開に向けた先行的な取組として、体験型イベント「MINA・KATSUフェスティバル」を開催した。
- 実施背景：地域クラブチームからの「活動周知の場がほしい」という要請や、今後地域展開の対象となる現小学4・5年生の保護者が抱く「受け皿はあるのか」「どのような活動か」という不安を解消することを目的に実施した。
- 内容：市内外の24団体が参加し、児童・生徒が実際に競技や活動を体験できる機会を提供した。また、各クラブの指導方針や費用等を直接保護者が確認できる相談コーナーを設けた。

取組の成果

- 成果：当日の参加者は、児童・生徒および保護者を合わせて約400名にのぼり、地域展開に対する関心の高さが示された。
- 満足度：参加団体へのアンケートでは、回答した全団体が「良かった」「とても良かった」と回答した。
- 具体的事例：団体からは「活動の選択肢として周知できる良い機会になった」、「予想より多くの来場があり、アピールができた」との声が挙がり、クラブと利用者のマッチング機能として有効であることが確認できた。

今後の取組における課題

- 環境面：冬期の開催であったため、会場が非常に寒く、滞在時間や体験の質に影響が出たという意見があった。
- 運営面：対象年齢の幅広さ（低学年の参加も多かった）に対し、各ブースの対応や安全管理体制にバラつきが見られた。
- リソース面：専門部署設置前のため、事務局運営が既存業務を圧迫した点。

課題への対応方針

- 開催環境の改善：次年度以降は、開催時期の再検討や暖房設備の活用、あるいは季節に応じた会場選定を行う 。
- 運営マニュアルの整備：対象学年に応じた安全管理基準や、体験内容のガイドラインを事前に団体と共有し、質の均一化を図る。
- 体制の強化：令和8年度に新設予定の「ミナ・カツ推進室」およびコーディネーターを中心とした、より持続可能な運営体制へ移行する 。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度の実証事業は、「MINA・KATSUフェスティバル」の開催を最大の柱として実施し、当初の目標であった「地域展開に向けた機運醸成」と「潜在的な受け皿の可視化」を概ね達成した。特に、クラブ側と保護者側の双方に直接対話の場を設けたことは、実証事業として極めて意義深いものとなった。



●成果の評価

- 不安の解消：実証事業前は「地域にどのようなクラブがあるか分からない」という保護者の不安が課題であったが、対面での体験・相談を通じて、制度への心理的なハードルを下げることができた。
- 連携体制の構築：教育委員会と各スポーツ・文化団体がイベントを通じて協力関係を深めることができ、次年度以降の「ミナ・カツクラブ」認定制度に向けた基盤が整った。

●今後に向けて

令和8年度は、「ミナ・カツ推進室」を設置し、本年度の実証で得たニーズに基づき、クラブの認定や指導者研修を本格化させる。フェスティバルについては、今回の反省（寒さ対策や広報の対象範囲）を活かし、より多くの家庭が将来の活動を具体的にイメージできる場として定着させていく。

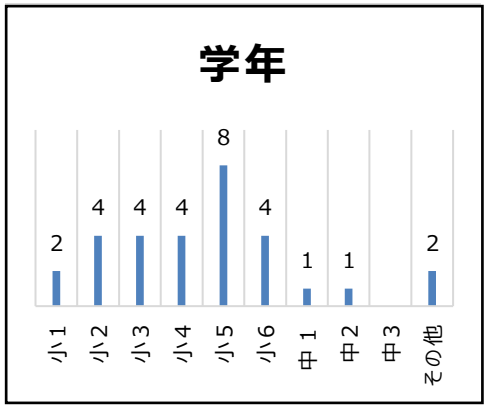
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

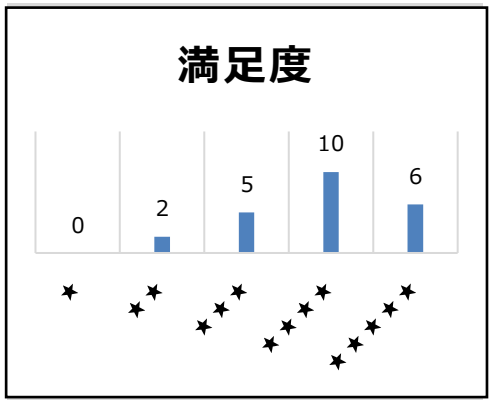
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

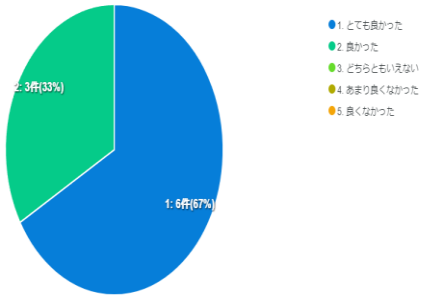
Q.体験会に参加したお子さんの学年は?



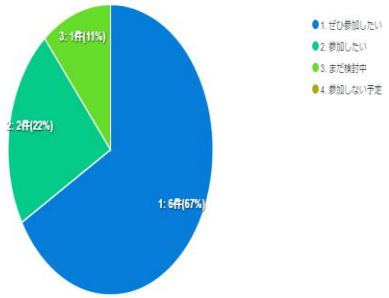
Q.イベントの満足度は?



Q.今回のMINA・KATSUフェスティバルへの参加について、全体としていかがでしたか?



Q.来年度のMINA・KATSUフェスティバルにも参加したいですか?（選択式・1つ）



●参加者/関係者の声

参加者①
学校主体の部活動から地域展開に変わろうとする、その方向性が見えるとても良い取組に感じました。

参加者②
体験、楽しめました。また次回開催があれば、今回とはまた違うクラブの見学や体験もできたら嬉しいです。

関係者①
思った以上に参加者、体験者が多くてアピールができました。来場者の興味の高さを感じました。

関係者②
クラブ活動の選択肢として周知できるいい機会になった。興味を持っていただいたお子さん、保護者の方に多数見ていただけた。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【体験会の様子①合気道】



【体験会の様子②サッカー】



【体験会の様子③弓道】



【体験会の様子④野球】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年以前	令和6年	令和7年	令和8年～ 令和9年	令和10年
協議会設置、検討開始	地域クラブ活動の総称を「MINA・KATSU」に決定	MINA・KATSUフェスティバル開催	ミナ・カツ推進室設置体制構築・先行実施	本格実施

● ステークホルダー
- 市教育委員会、小中学校長、部活動顧問、スポーツ協会、文化協会

● 経過
- 南あわじ市学校部活動地域展開協議会を設置し、検討を開始。
- 教職員、生徒、保護者へのアンケートを実施し、地域展開に向けたニーズと課題を把握。
- 受入可能団体のリスト作成および条件の確認。

● 実施にあたって生じた課題
- 学校現場（顧問）の負担軽減と、生徒の活動機会の維持の両立。
- 地域クラブ側の受入体制（指導者・場所）のバラつき。

● ステークホルダー
- 小中学生、保護者（特に現4・5年生）、地域クラブチーム、市教育委員会

● 経過
- 地域クラブ活動の総称を「MINA・KATSU（ミナ・カツ）」と決定する。
- 「文化・スポーツ担い手強化応援補助金」で、地域クラブの自走を支援。
- 「MINA・KATSUフェスティバル」を開催（令和8年1月）。クラブチームからの要請と、将来の利用者である現4・5年生保護者の不安解消を目的に直接体験・対話の場を創出。開催後入会実績あり、成果見られる。

● 実施内容、工夫した点 等
- 工夫点：単なる説明会ではなく「フェスティバル」形式にすることで、親子が気軽に参加し、地域クラブの活動をポジティブに捉えられるよう演出。
- 広報：市広報、SNS、ケーブルテレビ等を活用した多角的な周知。

● ステークホルダー
- ミナ・カツ推進室、コーディネーター、認定ミナ・カツクラブ

● 経過
- 専門部署「ミナ・カツ推進室」を設置し、コーディネーターを配置。
- 「ミナ・カツクラブ」の募集・認定制度を開始。
- 指導者向け研修会（安全管理・指導法）の実施。

● 実施にあたって生じた課題（想定）
- 生徒の移動手段（送迎）の確保。
- 学校施設と社会教育施設の効率的な活用調整。

● ステークホルダー
- 地域住民、全ての小中学生・保護者、民間事業者

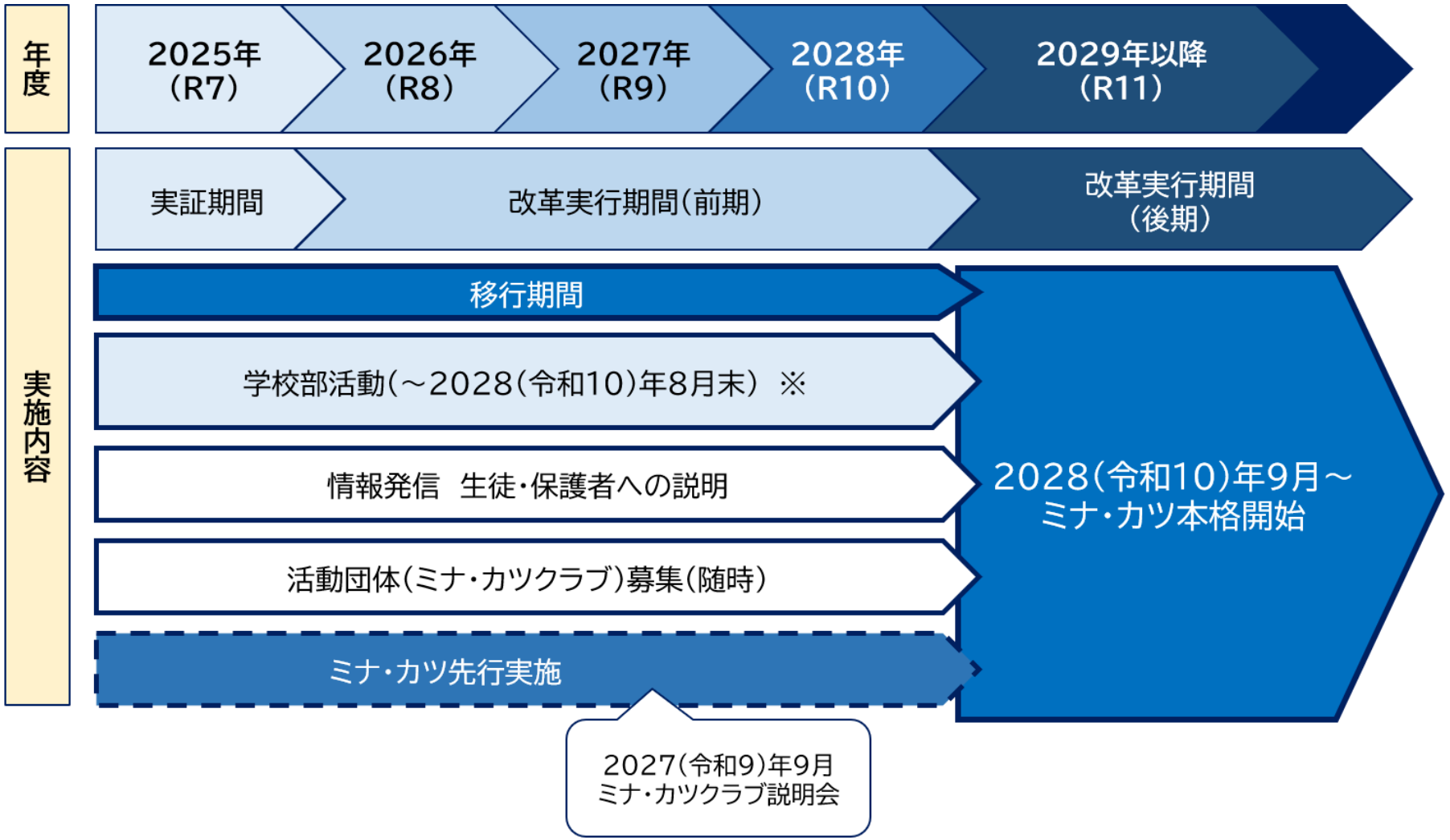
● 経過（目標）
- 令和10年2学期の完全地域展開を実現。
- 子どもたちが、学校の枠を超えて多様な文化・スポーツ活動を選択できる環境の定着。

● 実施内容、工夫した点 等
- 地域と学校が連携した、持続可能な活動環境の維持。
- 「誰もが親しめる環境づくり」を通じたコミュニティの活性化。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



※部活動の終了時期について、一部の種目では3年生の引退をもって終了する等、柔軟に対応する。